

# 第59回ダルクローズ・リトミック 音楽教育法講習会報告(2014年8月発信)

年に1度の夏の講習会。7月28日(月)、広島市中区アステールプラザ多目的スタジオにて、小学校、幼稚園、保育園、および子どものための音楽教室等、各方面から50名もの先生方にお集まりいただき、盛大に開催することができました。講師は、石井亨先生と坂本真理子先生。本部の常任理事をお務めいただきながら、全国各地へ飛び回っておられるお二人。今年も、お忙しい中をお引き受けいただきました。



参加していただいた50名の先生方、いつも熱心に、活発に、元気に学んでいただいてほんとうに嬉しい限りです。今回は、4名の男性のご参加もあり、いつになく充実した会になったように思います。先生方、ありがとうございました。

## 【午前の研修】



朝はテンションが上がりにくいもの。だが、そこは大ベテランの石井先生。さすがです。いつのまにか、リズムが、フレーズが、エネルギーを得て、生き生きと動き出します。先生は、予備の大切さ、共感の重要性を話されながら、私たちに「うごき」を促されます。50名の体が自然に反応していく感じ。「秋がきました」の歌も、リズムが生きてくれば、歌声も響きだし、旋律の美しさ、変ホ長調の優しさ、素朴さが何とも心地よく感じられます。



## 【午後の研修】

坂本先生の研修は、いつものように、「風船がふくらんだ〜」「おかあさんのおひざ」、「ともだちとおどろう」と展開。先生のご指導の特徴は、「ロールプレイングの巧みさ」とでも言えばいいのでしょうか。「なぜか、その気にさせられちゃう」「いつのまにか、こどもになっている」。まず、先生自身が、少年にも、少女にも、おじさんにも、熊にも、小鳥にも、虫にも、いつでもパツとなれる、という役割演技のすごさに舌を巻きます。



今日の中心は「マズルカ」。体全体で民族的なリズムを感じ表現していきました。



今年もあっというまの1日。お二人の先生、ありがとうございました。さて、来年度は第60回という節目の研修会となります。どのような企画にしていくか、これから智恵を絞りたいと考えています。たくさんの皆さん方に参加していただき、記念すべき会になればと思います。どうぞ、今後ともよろしくお願い申し上げます。